

令和8年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号（水稻）

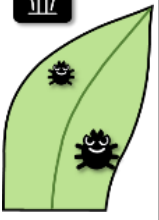
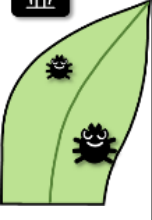
令和8年8月27日発表（対象期間：令和8年8月下旬～9月上旬）



1-（1）

水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち （中生）	並 	並 	出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
紋枯病	並 	やや多 	- 夏季の高温により進み、発病が増加するので注意が必要です。 - 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 - 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上になった時です。 - 防除適期は穂ばらみ期～出穂期です。
トビイロウンカ	並 	並 	- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 - トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 - 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
斑点米カメムシ類	やや多 	やや多 	- 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。出穂2週間前までに除草を終えましょう。 （要防除水準） カスミカメ類：4頭以上／20回振り、 その他加害種：2頭以上／20回振り （防除時期） カスミカメ類 出穂期～その10日後に1～2回 その他加害種 出穂7日後～14日後に1～2回
イネカメムシ	並 	やや多 	- 出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。 - 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。 （防除時期） 出穂期～その10日後に1～2回

① 穂いもち (中生)		現況	予報
予報の根拠	● 8月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が16.7% (平年23.3%) で、発生程度は1.01 (平年1.05) で、それぞれ過去10年で5番目と9番目です (±)。 - また、穂いもちの発生地点率は8.6% (平年値7.5%) で平年並みです。 (±) ● 中国地方1か月予報では、気温が平年より高いです (-) ● 中国地方1か月予報では、降水量は平年並みか少ない見込みです (±)。	並	並
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因		 (葉いもち)	

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

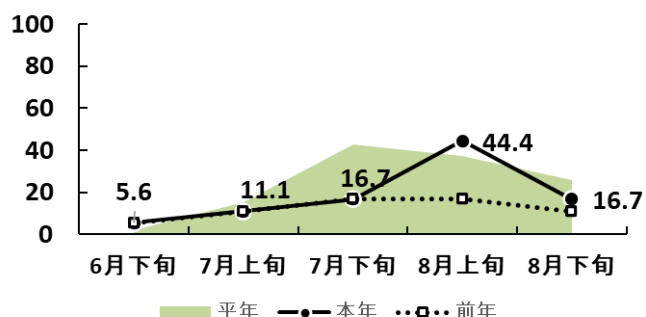
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

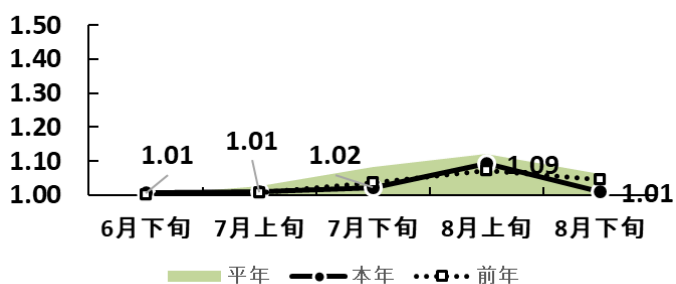
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ (葉いもち)】

葉いもち 発生地点率 (中生18地点)



葉いもち 発生程度 (中生18地点)



穂いもち



穂首部分 (拡大)

② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

- 8月下旬巡回調査では、発生地点率は37.1%（平年44.1%）、発生株率は6.1%（平年7.5%）で平年並みの発生です（±）。
- 中国地方1か月予報では、気温が平年より高いです。また、降雨により紋枯病の発生が助長されます（+）。

並



やや多

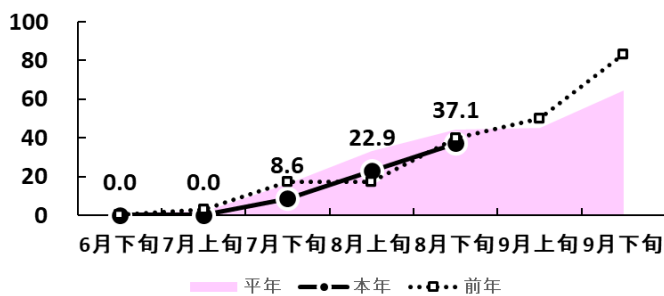


【防除上の注意事項】

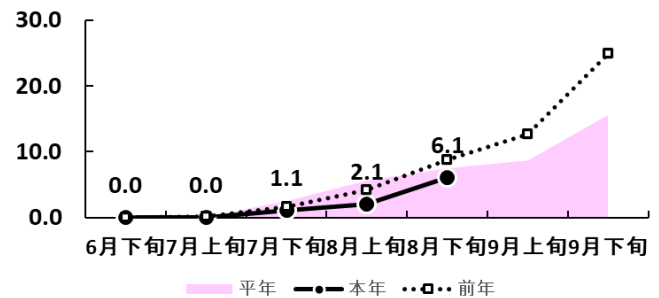
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や曇雨天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。
薬剤は、病斑のある葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



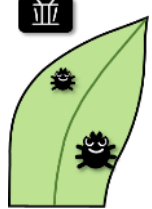
紋枯病 発生株率(全域 35地点)



紋枯病の病斑

③ トビイロウンカ

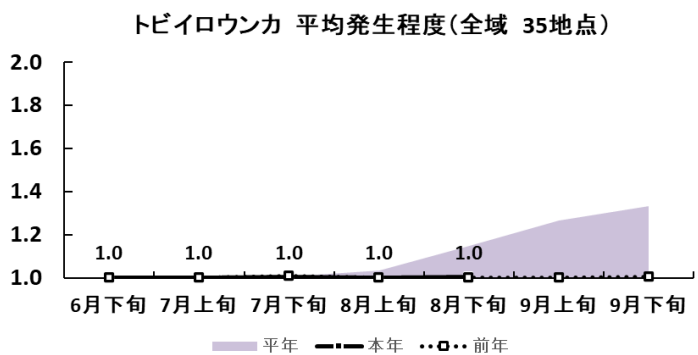
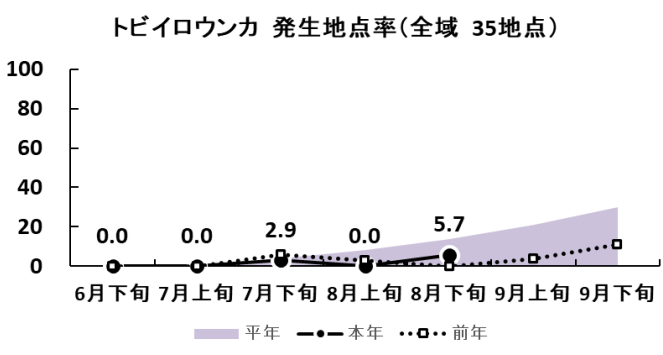
現況  予報

予報の根拠	● 8月下旬巡回調査の発生地点率は5.7%（平年13.9%）でした（±）。 ● 予察灯（東広島市）では、これまでに2頭の誘殺が確認されています（±）。 ● 予察灯（呉市）では、これまでに1頭の誘殺が確認されています（±）。 ● 予察田（呉市）では、8月の第4半旬から発生が確認されています（±）。 ● 中国地方1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並みか少ない見込みです（±）。	並	
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因		並	

【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
飛来後第2世代幼虫期は9月上旬です。
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の[「調査の方法」](#)をご覧ください。

【巡回調査データ】



長翅型成虫



短翅型成虫

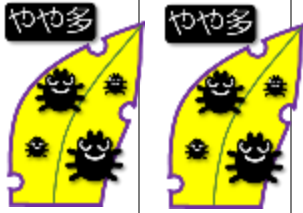


中老齢幼虫

④- 1 斑点米カメムシ類

現況 予報

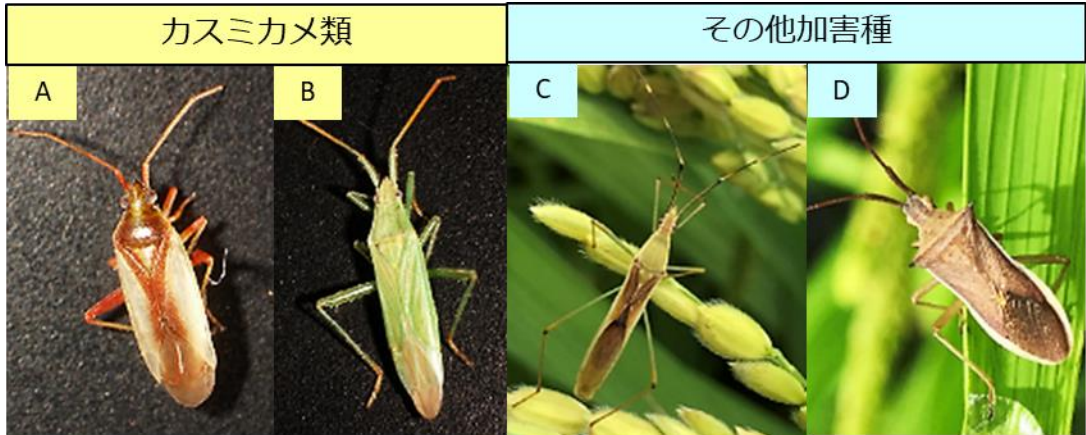
- 8月下旬の本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は32.5%（77地点中25地点）です。
- 平均すくい取り虫数はカスミカメ類1.6頭（平年2.9頭）大型カメムシ類で0.89頭（平年2.0頭）です（表）。
- 中国地方 1 か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。



【防除上の注意事項】

- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。
- 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。出穂2週間前までに除草を終えましょう。
- 本田掬い取り調査では出穂期からほ場への侵入がみられており、防除を行っていないほ場では被害が集中する恐れがあります。期間防除を徹底しましょう。
（要防除水準）
カスミカメ類：4頭以上／20回振り、
その他加害種：2頭以上／20回振り
（防除時期）
カスミカメ類 出穂期～その10日後に1～2回
その他加害種 出穂7日後～14日後に1～2回

● 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ

表. 8月下旬の本田すくい取り虫数（頭）

地帯	区分	令和8年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	カスミカメ類	0.7	1.3	0.3	0	0.0	0.3	0.4
	その他加害種	1.2	1.7	2.1	0	0.0	20.3	4.8
中東部平均値	カスミカメ類	2.8	0.5	3.0	1.0	3.5	0.2	1.6
	その他加害種	0.6	2.3	1.4	0.1	0.0	0.0	0.8
中西部平均値	カスミカメ類	1.9	0.7	4.6	0.6	7.0	0.0	2.6
	その他加害種	0.97	0.1	7.4	2.0	3.0	0.0	2.5
北部平均値	カスミカメ類	1.7	1.7	-	46.8	0.3	0.0	12.2
	その他加害種	0.38	0.0	-	0.3	0.3	0.7	0.3
県全域平均値	カスミカメ類	1.6	1.1	2.4	6.4	3.8	0.7	2.9
	その他加害種	0.89	1.3	3.6	1.1	1.5	2.5	2.0

④-2 イネカメムシ

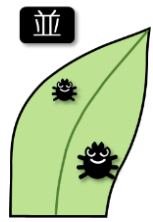
現況

予報

予報の根拠

- 掬い取り調査における発生ほ場率は6.5%でした（77地点中5地点）。
- 8月第5半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は20頭（平年47.2頭）となっており、平年よりも少なくなっています（－）。
- 予察灯（尾道市）で、8月2半旬までに63頭誘殺されています。
- 今後の気候によっては、第1世代幼虫・成虫が多発生し、被害が増加する恐れがあります。
- これまで発生がみられなかった庄原市東城町や高野町といった県北部でも発生が確認されています（＋）。
- 例年、呉市の予察灯では9月第2半旬ころまで誘殺数が多い傾向にあります。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（＋）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因



【防除上の注意事項】

- イネカメムシは、斑点米被害だけではなく不稔による大幅な減収を発生させる恐れがあります。
- 出穂前から水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。
- 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。
- 極早生品種などの周囲と比べて出穂が早いほ場は、集中加害を受けるため、特に注意しましょう。

(要防除水準)

2頭以上／20回振り

(防除時期)

出穂期～その10日後に1～2回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



1 齢幼虫



中齢幼虫



成虫

【イネカメムシについて】

● 形態

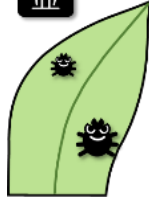
体長12-13mmの大型のカメムシ。体色は黄褐色で背部両面に白色帯を持ちます。体形はやや細長いです。幼虫はそれより小さく、白っぽい灰色をしています。

● 生態

成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。出穂していない水田にも集中飛来して集団化することもあります。

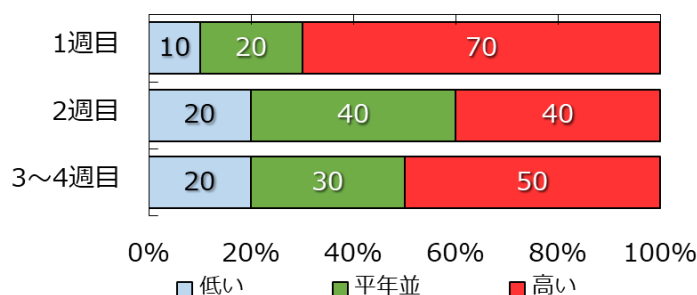
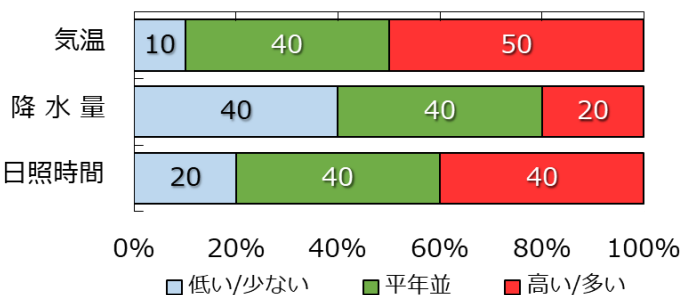
その後、早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1～2世代を繰り返します。その後は越冬地へ移動します。

夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいですが、日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することが多いです。

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	少 	出穂前後の防除を徹底しましょう。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
セジロウンカ	並 	通常、出穂期以降は水田から移出するため防除の必要はありません。
コブノメイガ	やや多 	通常、出穂期以降は成虫が発生しても防除の必要はありません。

(広島地方気象台 8月27日発表、8月29日から9月28日までの天候見通し)

- 7月から8月上旬にかけて、暖かい空気に覆われやすかったため、気温の高い状態が続きました。気温は再び高くなっており、今後1か月程度は、暖かい空気に覆われやすいため気温の高い状態が続く見込みで、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 7月から高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いています。今後2週間程度も、湿った空気の影響を受けにくいため、これまでの少雨の状態を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は小さい見込みです。向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。



6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」	: 1 番目（最多年）と同程度以上
「やや多」	: 2～3 番目と同程度
「並」	: 4～7 番目と同程度
「やや少」	: 8～9 番目と同程度
「少」	: 10 番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

二次元コードはこちら →



掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）